

(様式例)

令和6年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立飛騨特別支援学校

学校番号 119

自己評価

学校教育目標	「ひとりだちのできる子」の育成（自立と社会参加の力を育てる） （思いを伝える 自分も仲間も大切にする なりたい自分を目指す） ・生活自立（基本的な生活習慣の確立・基礎体力の向上・基礎学力の定着） ・社会自立（情緒のコントロール・コミュニケーションスキルの獲得・規範意識や危険回避能力の育成） ・職業自立（自己理解と行動の調整・働くことの意義や役割の理解・職業に対する理解や実的な知識・技能・態度の習得）
評価する領域・分野	「教育活動の充実（キャリア教育）」（進路指導・関係機関との連携）
現状及びアンケートの結果分析等	保護者に一般的な情報を提供することに関しては、昨年度よりも評価が高くなった。しかし、生徒が主体となって進める具体的な取組について、さらに保護者と連携をとり進めていく必要がある。また、教員間で学びあい、知識や情報の差がないようにキャリア教育や関係機関に関する研修を行い、保護者と連携して教育活動を充実させていく必要がある。
今年度の具体的かつ明確な重点目標	・児童生徒同士、教員同士が学部を超えて関わり、お互いのことを知る。 ・児童生徒が自分の役割を果たそうとする。 ・児童生徒が自分なりの方法で思いを語ることができる。 ・保護者に、キャリア教育や進路についての情報を提供する。 ・教員が、キャリア教育のねらいをもって、日々の支援を行う。
重点目標を達成するための校内組織体制	・全校レク：生活支援部、中学部、全校 ・あいさつ運動：生活支援部 ・生徒との懇談：相談支援部、高等部 ・授業参観：教務部、進路支援部、小、中、高各部 ・職員の専門性の向上：研究研修部、進路支援部
目標の達成に必要な具体的な取組	・全小学部から高等部までの児童生徒が関わる機会として、学部合同の児童生徒会行事や学校祭、全校でのレクリエーションを行う。 ・生徒会が中心となりあいさつ運動をする ・教員が意識的に、児童生徒が自分の思いを伝えられる場を設定する ・相談支援部が中心になり、高等部では生徒本人と希望や現在の課題等を話す懇談を実施。 ・教員、児童生徒の他学部の授業参観 ・生徒本人及び保護者を対象とした進路説明会、事業所説明会の実施 ・小学部段階から保護者と進路についての懇談を行う。 ・キャリア教育における、教員研修の実施
達成度の判断・判定基準あるいは指標	・学校評価アンケートの内容 ・児童生徒の目標に対する評価 ・懇談時の保護者からの意見
取組状況・実践内容等	・児童生徒が「自分が目指したい姿」を知ることができるよう、児童生徒会の認証式をや部活動の伝達表彰を、全校の児童生徒の前で行った。 ・2か月に1回、児童生徒の関わりを増やすため、全校のレクリエーションを行った。昼休みにほとんどの児童生徒が自主的に参加するようになった。事前に中学部生徒が各部を周り、PR活動をして回り、部を超えて会話をする姿や、各部の児童生徒が実施日を楽しみにしている姿が見られる

	<p>ようになった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高等部のMSリーダーズがあいさつ運動を行った。何日か過ぎるとその姿にあこがれた小学部の高学年児童が自発的に一緒に行くようになった。また、小学部では、高学年の児童が「あいさつリーダー」として、率先してあいさつに取り組んだ。 ・PTAと連携し、「福祉サービス説明会」「事業所説明会」「進路座談会」を実施した。「福祉サービス」については、PTAからの希望で、再度講師の話を聞く機会がもたれた。 ・夏季休業中に、職員向けのSC研修やキャリア教育研修会を行った。
評価の視点	評価
① 全校の児童生徒が関わる機会を設け、自分が目指す姿をイメージしたり自分の役割を果たそうとしたりする姿がみられたか。	(A) B C D
② 児童生徒が、自分の思いを伝えようとする姿を引き出すことができたか。	A (B) C D
③ キャリア教育について全学部の保護者が自分のこととして理解できるような働きかけができたか。	A (B) C D
④ 本校の職員が、キャリア教育について理解を深めめることができたか。	A B (C) D
A 十分達成した、B おおむね達成した、C やや不十分、D 不十分	
成果・課題	総合評価
<ul style="list-style-type: none"> ・全校がつながる機会を多く設定したことで、小・中学部の児童生徒が高等部の生徒にあこがれ、真似してやってみようとする様子が見られた。 ・児童生徒が、言葉や写真、イラスト等を使い、思いを伝える姿が増えた。 ・進路に関するPTAの研修会等に、多くの保護者の参加があった。 ・教員が、日々の授業について、キャリア教育の視点を踏まえて保護者に十分な説明をすることができていない。 ・生徒が、実習先や卒業後の進路について選択できるための情報の提供がまだ不十分である。 	A (B) C D
来年度に向けての改善方策案	<ul style="list-style-type: none"> ・「キャリア教育」に対する教員の理解を深め、どの教員も通信や懇談時を通して、現在の姿が将来の力にどうつながるかを保護者に説明できるようにする。 ・保護者や教員が、他の学部の授業見学をする機会を設ける。 ・進路に係る取組を、他の学年や学部、保護者に伝える工夫をする。 ・生徒が、自分に合った進路選択ができるように、各事業所の特色を知る機会を設ける。

学校関係者評価 (令和 6年12月16日実施)

<p>意見・要望・評価等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・キャリア教育について、教員間で知識や情報量の差がないようにしてほしい。 ・全校の児童生徒がつながって、お互いのことがわかる・考えるような活動をするのはよいことである。続けていってほしい。 ・授業見学で、失敗したときに報告できる姿を見たが、将来信頼や信用につながる。 ・縦割りの活動は、先輩にあこがれ、意欲が出てよい。 ・中学部の生徒が事業所の見学を行ったことは、自分の将来を考えるうえでとてもよい事である。 ・作業学習では、丁寧な作業をしている。生徒が目で見確認できるようになっていた。常に教員が見ていてよい。 ・A型の事業所では、スピードを求めている。スピード面で力がつくように工夫するとよい。 ・生徒自身が考える力をつけることは大切である。考えて動くことを大事に、身に付けてほしい。 ・生徒が主体となる進路選択のために、事業所の特色や理念を理解できるような場を設けてほしい。 ・高等部の卒業時点での事業所との関わりではなく、1年生からの関わりが大切である。
